

ハンガーゼロ (日本国際飢餓対策機構) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18カ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「ここからだの飢餓」に応える活動をしています。

支援者の皆様へお詫び

当機構の沖縄事務所において、職員による業務上横領が判明いたしました。

また、当該職員は、世界食料デー沖縄大会の事務局員も兼ねており、そちらでも横領が行われていたことがあきらかとなりました。

皆様からの大切な寄付金をお預かりし、運営する団体として、まことに残念な事態であり、痛恨の極みです。支援者の皆様には深くお詫びを申し上げます。

現在、調査委員会によって全容の解明と当機構が講じるべき必要措置等について調査検討が行われております。後日、追って詳しく報告を致します。

支援者の皆様には重ねてお詫びを申し上げます。

今後 当機構の内部管理体制の見直しと厳正な管理体制の確立により、再発防止に全力でつとめてまいります。

今後とも皆様のご協力と御支援をいただきますようお願い申し上げます。

2023年5月

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構
理事長 清家弘久

「救缶鳥」リニューアル

卵不使用で「まもり高める乳酸菌 L-137」を配合しました。ご購入から約2年半後に次回購入と交換で回収し、被災地や海外支援に用いられます。詳しくはウェブサイト、ご希望の方にお送りする専用チラシをご覧ください。



お支払い：銀行振り込み、および郵便振替の先払い、または代引き
※送金は必ずキングダムビジネスまでお願いいたします。ハンガーゼロでは一切お受けできません。

お申し込み：

(株)キングダムビジネス
スマートフォンは右のQRコードから
電話注文：06-6755-4877



【トルコ地震緊急募金】

募金は…①郵便振替 ②ホームページからのクレジットカード決済利用の2種類
①郵便振替 00170-9-68590
一般財団法人日本国際飢餓対策機構「トルコ地震」と明記
②ホームページ 募金画面からクレジットカード、コンビニ決済がご利用いただけます。



サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

ふり氏	がな名	
(TEL)		
住 所	〒	
申込日	年 月 日	NL395号

✓	下記から希望されるものをお申し込みください
☐	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月 () 円 (1 円 1,000 円) ②一時募金として 円協力します。
☐	継続募金 (JIFH サポーター) として協力します。 毎月 () 円 (1 円 500 円)
☐	チャイルドサポーター (子ども1人毎月 4,000円) の説明書 (申込書) を送ってください。
☐	郵便自動引落し申込書を送って下さい。
☐	その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在… **5316** 人

大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
(広島) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 517 号室
(東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
愛 知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 YWCAビル 6F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
沖 縄 〒900-0033 那覇市久米 2-25-8 メゾンクミ 202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940



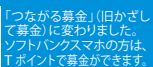
■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



●Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに1,617,220ポイント (円) のご協力 (24,823件) がありました。Tポイント募金で検索。
●「つながる募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2023.6 No.395
ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人 (内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000 万人が
飢えのために生命を失っています

発電機の配布



子どもへのケア

砲弾の穴の傍で…



発電機の配布



現地団体と連携



ウクライナ緊急支援継続中



Contents

ウクライナ緊急支援 緊急支援チーム深水典幸さんの報告	P.2-3
白鞘慧海ハンガーゼロ親善大使 「フィリピン視察報告」	P.4-5
チャイルドサポーター活動報告	P.6
支援者の皆さんの広場	P.7

ウクライナ難民緊急支援「元被占領地の現状と活動」



報告／ハンガーゼロ緊急支援チーム深水典幸さん



武器の代わりに愛(人道支援)で戦う人々

ドブリデンーこんにちはー。一般的なウクライナ語での挨拶です。けれど、元被占領地域ではあいさつに変化が生まれています。ドブリデン。ティイショジュボイ。ティツラアイーこんにちは。あなたは生きのびました。腕も足も残っていますー。

私たちはハルキウ州とヘルソン州の5つの元被占領地域で人道支援を行いました。発電機や食料の配給、またキッズプログラムなどを通して地元の人々と交流しました。現地の様子を報告します。(本号表紙写真も参照ください)

村を訪問すると崩れた建物が次々に目に飛び込んできます。村によっては95%以上の家屋が崩壊していました。爆撃によって壁しか残っていない住居、銃撃によって穴だらけになった子ども部屋、残された扉には被占領の証であるZのサインがスプレーされていました。ある男の子がいつも遊んでいる公園を案内してくれました。"雑草のある場所には近づいちゃダメだよ。まだ地雷が埋まっているんだ"彼が教えてくれました。ー爆弾の仕掛けられた公園で子どもたちが遊んでいるー私たちはこの事実衝撃を受けました。戦争は子どもたちの日常となっているのです。

私たちはいつも人道支援とともに地元住民たちとの情報交換を行います。刻一刻とニーズが変わるからです。ロシア軍に村を占拠されていた恐ろしく痛ましい日々を当事者



から伺う中、そこに若者たちの姿が見えないことに気がきました。ほとんどの若者たちは村を離れ避難したんだそうです。もしロシア兵に見つかれば捕虜にされるか、殺害されるからです。ある若者や家族は戦争初期に村が占領されたため、避難すら叶いませんでした。彼らは地下室に隠れて、小麦を水で溶いたものを食べ、飢えを凌いだそうです。そうした家族に食糧を届けていた婦人からお話を伺いました。



地雷注意の立札

命の危機を何度も潜り抜けながらも

当時お年寄りにはある程度の自由が残されていたそうです。そのため、彼女はロシア兵に隠れながら村人や塹壕に隠れているウクライナ兵に食糧を配布していました。彼女は断食をし、祈ることで、人々を支え続ける勇気を得ました。何度もロシア兵の検問に会い、その都度命の危機に直面しましたが、支援を続けたそうです。"神様がいつも私に知恵を与えてくれたの。だからロシア兵の検問を越えることが出来たのよ。"当時の様子を笑顔で語る彼女の姿にただ圧倒されました。



【ウクライナ緊急支援募金】

募金は…①郵便振替 ②ホームページからのクレジットカード決済利用の2種類
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構 「ウクライナ緊急支援」と明記
②ホームページ 募金画面からクレジットカード、コンビニ決済がご利用いただけます。



⑤瓦礫と化した住宅の跡 ⑥教会のトイレに落ちた不発弾の後

同村でロシア軍は二週間に一度、部隊を入れ替えていたそうです。部隊が変わるたびに全ての建物は強盗の被害に合いました。ウクライナ軍による解放までの7ヵ月間、強盗は常態化し全ての家のはもぬけの殻となりました。トイレすら持ち去られたそうです。けれど、ロシア軍は兵隊の遺体だけは残して이었습니다。村人にとって彼らはテロリストであり強盗ですが、村人たちの手で遺体を埋葬したそうです。悪に対して悪を返さない。彼らは人として真っ当に生きることで戦争を戦っています。

ほとんどの元被占領地域には何も残されていません。家、学校、病院、幼稚園は全て爆撃されました。仕事もありません。ロシア軍からの奪還後、徐々に若者が村に帰ってきています。けれども復興に必要な助成金や人手は足りていません。人々は瓦礫の山からまだ使えるものを探したり、どこからか飛んできた扉で家の壁を修繕していました。子どもたちは一年以上学校教育から離れています。オンラインで授業を受けようにも設備が足りないからです。復旧が進んだ地域によっては徐々にオンラインクラスが始まっています。けれどそこにクラスメイトたちの姿はほとんどありません。どこに避難したのか、元気でいるのか誰にもわかりません。



車なしでは暮らせない田園地帯の国

ある女性は車を燃やされました。建物であれば補助金が出ますが、車や冷蔵庫などは適応外です。世界の食糧庫として知られるウクライナでは広大で肥沃な田園風景があちこちに広がっています。車なしでの生活は想像ができません。インフラの再整備や住居の再建のための人出が足りていません。ようやく始まった電力インフラの工事も1ヵ月にかかるだろうとの見込みです。

人材不足は教会も同様です。ある牧師は周辺8つの村を一人で支えています。唯一形の残った彼の教会にも不発弾

が落ち、天井を抜け壁をえぐった跡が残っています。彼は村々を巡回し、信徒の庭先で礼拝を続けています。地元の人々は心に傷があり、聖書の言葉を聞きたいと願っているからです。

悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるからです。義に飢え渴く者は幸いです。

その人たちは満ち足りるからです。(新約聖書)

行政は広く多くの人々を支援しようと努力しています。けれど、大きな支援の網からこぼれ落ちてしまう避難民たちもいます。彼らの多くは貧しく、戦争前から社会で孤立していた人々です。私たちはこうした本当に支援の必要な人々を支えるため、手探りの活動を続けています。

この国の人々は様々な方法を通して戦っています。ある人道支援



発電機の配布



破壊された建物の前で行われたキッズプログラム(手前はハンガーゼロの王さん)

物資を管理する団体のリーダーは"私たちは武器の代わりに愛(人道支援)をとって戦っている。"とおっしゃっていました。また元被占領地域のお母さんは庭先にできたクレーターを見て"夏には子ども用のプールにできるわ"と笑い飛ばしていました。ユーモアも戦う力です。私たちも、人道支援を通して、この戦争に戦うことができます。引き続きご支援よろしく願いいたします。



オクダデザインプロジェクト 施工例
デザイナーズガレージハウス

OKUDA DESIGN PROJECT.

貸したい時も、借りたい時も。不動産賃貸のご相談はー



株式会社
オクダコーポレーション
〒197-0003
東京都福生市熊川447-9
042(552)0102
インターネットでお部屋探し https://okuda-re.co.jp



しらさやえみ 白鞘慧海 ハンガーゼロ親善大使 フィリピン視察報告

3月9日～17日、ハンガーゼロ親善大使として初の海外訪問の機会を頂き、フィリピンのマニラとミンドロ島に行って参りました。日本から同行して下さったのは、ハンガーゼロの田村スタッフ、ジェロムスタッフ、夫の谷口牧師。事前に田村スタッフからフィリピン支援、現状などのレクチャーを受け、期待と緊張が入り混じった思いで、9日夜、関西空港からフィリピンへと飛び立ちました。



パラニャケで感じた人々の「生きる底力」

深夜、マニラに到着し、ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン（HOLPFI）の酒井保スタッフと合流。数時間の休息の後、翌日早朝から、マニラ首都圏のパラニャケにあるアーバンブア地域へ赴きました。この地域に住む人々の多くは、ペットボトルやプラスチック製品などのゴミを集め、それらを売って生計を立てているとのこと、見せて頂いた家の中にも集められた物が所狭しと置かれていました。全体的に

匂いも強烈で、汗ばむ気候と混じり合い、息苦しさを覚えるような環境ではありましたが、そんな中にあっても皆、悲壮感など全くなく、誰もが笑顔で生き生きとして「生きる底力」がみなぎっていました。私が今まで写真や動画で見てきたような2次元の景色だけではない、彼らのリアルな生活を立体的に肌で感じることができ、逆にエネルギーをもらったような貴重な体験でした。

「SPECS」という子どものためのプログラム(写真▶)にも参加させて頂



SPECS のプログラム

き、聖書のお話を聞いた子どもたちが、先生の質問に元気に答えたり、賛美に合わせてダンスをしたり、一緒におやつを食べたり、次世代への教育が活発に行われる場面も見る事ができ、先生や子どもたちの笑顔にも癒される豊かな時間となりました。

11日からミンドロ島へ渡り、日曜日は、Jesus Christ Calapan Churchにて特別賛美を捧げさせて頂きました。賛美を聴いて涙される方もおられ、皆様の癒しや励ましとなれたことを感謝します。

ジャングルと川を超えてアルサビに向かう

そしていよいよ、13日から HOLPFI が大きく関わっている地域の一つ、アルサビ村(以前のマイ村)に入っていきます。人口約 220人、世帯数は約60、マンヤンと呼ばれるミンドロ島原住民、タウブイッド族の方々が暮らしている村です。事前の説明では、この村に入るためには数時間ジャ



アルサビへの道のりはとても険しい



村人からいただいた 初！ココナッツ！



アルサビ村



村の人々が建てた教室で学ぶアルサビの子どもたち



谷口牧師のギター伴奏で村の子どもたちと楽しく歌う

ングルを歩き、川の中を何度も歩いて渡るとのことだったので、靴や服、帽子、手袋、サングラスなど、様々な物を用意、装備して村に向かいました。HOLPFIのスタッフ5名、荷物を運んで下さる村の方々も10名程加わり、約1時間半の行程を皆で大移動。結局、川は21回渡りました！

村の教会と学校でゴスペルを歌う

村の方々は、もともと戦いを好まない部族とのことで、皆さん穏やかでシャイな方々でした。村に入ると、まず教会が見えてきます。殆どがキリスト教徒で、毎日、朝と夕方に礼拝を捧げているとのこと。私も参加し自己紹介したところ、歌って欲しいということになり、急遽、賛美をすることになりました。村には電気が通っておらず、ピアノもないので、殆どアカペラで歌うような形になりましたが、それでも皆さん喜んで下さいました。

村の奥に進むと少し高台になっていて、教室が2棟建っており(3棟目建設中)、昼間は子どもたちの元気な笑い声や歌声が聞こえてきます。先生から「子どもたちに何か歌を教えて欲しい」という依頼を受け、「This Little Light Of Mine」というゴスペルでよく歌う曲を、振付きで子どもたち

に覚えてもらって一緒に歌いました。最初は皆、とても恥ずかしそうにしていたのですが、だんだん慣れてくると、声も振るも大きくなり、最後には一緒に手を広げてジャンプしてくれて、ジャンプする度に大きな声で笑ってくれました。心から楽しんでくれたようで嬉しかったです。その後、私が歌を教えてそれで終わりかと思っていたら、なんと、その子どもたちがお返しの歌を歌ってくれたのです。しかもオリジナルソングを！すごく綺麗なメロディと言葉で、涙が出ました。「神様はあなたのために天国におうちを用意してくれているよ」という意味の曲なのだそうです。

HOLPFIの子ども教育支援

HOLPFIは、食料、物資の一時的支援だけではなく、そのコミュニティからリーダーが輩出され、人々それぞれの潜在能力が発揮されていくような長期的支援を行っています。子どもたちの教育はその大きな基であり、奨学金制度を設けて彼らの未来を支えています。このアルサビの子どもたちも将来、村のリーダーとなり、更にはフィリピンのリーダー、世界のリーダーとなっていかかもしれません。今回、酒井保スタッフと共に、最初からずっと私たちを細やかにサポートしてくれた、アネススタッフも実は、以前支援された村の出身だそうで、奨学金を受けて大学を卒業し、現在HOLPFIスタッフとして大きな役割を担われています。支援の実が結ばれているその証を見ることができました。「



助けられた者が、次の人を助けていく。それは輝く未来に繋がります。私もその未来のため、自分にできることをもっと探していきたい、そう思われました。フィリピンの未来、世界の未来を祈りつつ。「私から始める、世界が変わる」また新しい1歩を踏み出せますように。

谷口牧師と田村スタッフと村の子どもたち

白鞘慧海

ハンガーゼロサポーター(継続と一時支援)になって、ハンズ・オブ・ラブ・フィリピンの活動を応援してください！

家族の Story



ルワンダのサルヘシ集落で暮らすドルカス イギホゾさんの家族が、チャイルドサポーターの支援を受けてどのように変わってきたのか、ドルカスさんの母親ペトロニーレさんにお話を聞きました。



ルワンダ

ドルカス イギホゾさんとその家族のお話

母親も家族も将来に希望を持っています

FH= 国際飢餓対策機構

● FHが介入する前の家族の問題

FHの支援を受ける前は、食事は1日1回で子どもたちの栄養が不足していました。50平米の土地で、豆、トマトやナスを栽培していましたが、肥料が手に入られず、どれもわずかししか収穫できませんでした。肥料の元となるヤギや鶏、豚などの家畜を飼っていなかったため、かご一杯の肥料を2000FRW(266円)で購入するのは大変でした。家族4人分の健康保険も払うことができませんでした。

作物の質が良くなって収入が向上

FHから豚1頭の支援を受けてから、少しずつ生活が改善され始めました。豚の排せつ物から肥料を得ることができるになり、それをバナナ(マトケ)など、さまざまな作物の栽培に活用しました。バナナの房の重さは、肥料を導入する前は8kg程度でしたが、40kgになり、質の良いバナナが収穫できるようになりました。それに伴い収入が向上しました。

45kgのバナナ1房は1万8千FRW(2,400円)で、母親は1カ月に少なくとも5房のバナナを収穫して9万FRW(1万2千円)を得ることができるようになりました。その収入を元に牛も購入できました。

また、肥料のおかげで150kgの豆と29kgのナスを生産できました。ナスは20kgで1万FRW(1,330円)になりました。豆の一部は種用に取り置きし、50kgを4万FRW(約5,300円)で売りました。

この収入を使って、生活必需品と家族の医療保険、そして安心のための蓄えなど、お金に関するすべての問題が解決できそうです。

支給された豚は再び4匹の子豚を産み、そのうち2匹を売却して子どもの学費、制服、靴、さらには食用油、塩、石鹸などの生活必需品と貯蓄に充てたいと考えています。

ドルカスのお母さんは「支援が全くない時は、暮らしを支える収入源がありませんでした。豚を飼うことで食べ物が手に入り、子どもたちとの暮らしをまかなうことができ

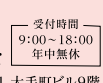
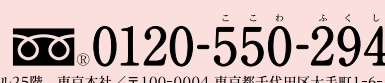


るとは、教えてもらうまで知りませんでした。これからも豚の飼育を続けて、いろいろな物の生産をさらに増やしたいです」と言っています。

子どもたちが学校に行くことができ、薬やその他の生活に必要な要件が満たされてきているので、母親も家族も将来に希望を持っています。

私たちロングライフグループは、ハンガーゼロの活動を応援しています。

ロングライフは1986年の創業よりケアサービスひと筋。全国に展開しています。



大阪本社/〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階 東京本社/〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階
ロングライフグループ拠点: 北海道/埼玉/東京/神奈川/千葉/静岡/愛知/大阪/兵庫/京都/大分/沖縄/中国(青島)/韓国/インドネシア(ジャカルタ)



ロングライフタウン寝屋川公園 フィレンツェの丘



玉川聖学院・高校生が東京事務所で学習会

学んだことを動画ブログで発信！

5月19日(金)午後、玉川聖学院の高校2年生の生徒さん11名と先生1名が、ハンガーゼロ東京事務所を訪問されました。東京事務所スタッフから世界の飢餓の現状やハンガーゼロの活動内容、SDGsについてお話ししたところ、生徒さんたちは時折質問をしながら熱心にメモを取っていました。

一人の生徒さんは「私たちの支援で実際にどんな活動が行われているのかを知ることができ、特に途上国の人々の自立を助ける働きをしているということがわかって良かった」と感想を話してくれました。学びのまとめとしてVlog(動画ブログ)を作成して発表するのが課題だそうです。デジタル



ネイティブ世代らしく様々なアプリを駆使して学習に取り組む姿が印象的でした。今回の生徒さんたちの発表を通して、さらに多くの生徒さんが世界の飢餓貧困の問題に関心を持ってくださることを願います。(東京事務所・中村)



「ビル産ビル消」横浜 ICONIC STAGE cafe

秋に小堀親善大使招き世界食料デー

5月18日(木)午後、横浜にあるカフェ ICONIC STAGE cafeにて、世界食料デーに向けたミーティングが持たれ、近隣教会などから14名が集いました。ここは3階が植物工場、2階が厨房、1階がカフェとなっており、3階で栽培した野菜や花をカフェメニューとして提供する、地産地消ならぬ「ビル産ビル消」を実現。11月3日(祝)にはこの場所で世界食料デーのオンライン大会を実施予定で小堀親善大使のピアノと山本善哉氏のチェロによるコンサートをお送りします。

【小堀親善大使コンサート情報】

ピアニストの小堀親善大使が率いる二人のマリンバ奏者とチェロ奏者と結成したアンサンブルメゾンによる「Maison Concert」(協賛:ハンガーゼロ他)が、6月17日(土)に日本キリスト教団天満教会にて開催されます。当日は、G.F.ヘンデル、J.S.バッハ、M.ラヴェル、G.ホルスト他のクラシック曲が演奏されます。入場料3,000円。(残り僅か)お問い合わせ先: Email en.maison2411@gmail.com FAX: 075-392-1527 主催: アンサンブルメゾン



高知ペンテコステ教会隣接のクリニック

医療法人オリーブ
大川内科
循環器内科・内科・老年内科
院長 大川 真理